

山陽特殊製鋼株式会社
2017 年度中間決算説明会
主な質疑応答（要旨）

開催日 2017 年 11 月 16 日（木）
説明者 取締役常務執行役員 高橋 幸三

Q. 2017 年度通期予想を修正していないが、前回通期予想と今回通期予想の増減要因の変化、セグメント別の見通しの変化について教えてほしい。

A. 2017 年度通期の前回予想と今回予想の増減要因について大きな変化はないが、前回予想をたてた第 1 四半期決算のときよりも原燃料価格が上がってきたので、原燃料価格のマイナスが少し大きくなっている。その分を、販売価格の改善などでカバーし、損益全体としては変わらないとみている。セグメント別に大きな変動はない。

Q. 2017 年度上期実績（経常利益 65 億円）→2017 年度下期予想（経常利益 53 億円）となる変化要因について、原燃料価格のマイナス 30 億円の内 7 割は鉄スクラップとのことだが、残り 3 割の内訳を教えてください。

A. エネルギー関係が 1 割弱、合金鉄類が 1 割程度、その他副資材が 1 割程度である。

Q. 需要が好調な中で、数量を伸ばす余地はあるのか。

A. 現在、需要が旺盛で、数量を伸ばすことができれば、確実に売上につながる局面である。下期の売上数量予想は 88 千トン／月と置いているが、実行面ではこれをもう少し上回るようにしていきたいと考えている。例えば、物をスムーズに出す、歩留まりを上げることなどに取り組み、さらなる数量増効果を狙っていきたいと考えている。

Q. 数量を伸ばす以外に、採算が良い品種を増やすなど、販売構成の改善余地はあるのか。

A. 現在、高収益品種の需要も旺盛なので、これらの数量を増やして、構成の改善も図っていききたいと考えている。

Q. 鉄スクラップ価格が足元でかなり上がってきているが、そのマイナス影響が追加で出る可能性はないのか。

A 2. 鉄スクラップ価格が足元上がってきており、その点はマイナス要因になる。一方、鉄スクラップサーチャージ制度による販売価格の上昇効果、また数量を伸ばす余地もあると考えているので、これらでカバーしていきたいと考えている。

Q. 第2粉末工場が稼働して数か月だが、3Dプリンター用粉末で状況の変化があれば教えてください。

A. 3Dプリンター用粉末については、いろいろな試作品を作ってお客様と一緒に考えているところである。最近粉末関係で引き合いが増えているのは、通信用途向けなどで、これらが伸びてきている。

以上

本資料に記載された将来の予測等は、説明会の時点で入手可能な情報に基づいたもので、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。いかなる確約や保証を行うものではありません。